

技の守り人 匠会通信

越後与板打刃物匠会

No.23 H27/12/21

与板製品を「ふるさと割」で全国へ発信

女性向け本格工具セット TANTON が今夏に発売され、与板打刃物のあらたな挑戦が話題を呼び新聞にも取り上げられました。

これに続いて匠会の販売サイトでは、新潟のすぐれた製品を紹介し求めやすくする3割引の超お買い得品の対象品目に与板刃物製品が加えられ、好評をばくしています。先日うれしい注文が入りました。それは5月上野のナイフ作り体験ですっかり与板の刃物ファンになった中学生の息子さんのため、Xmas プレゼントに河政さん作の小刀を送りたい、という親御さんからのご注文でした。こうした心あたたまる話が、鍛冶職人の元気の源になるのです。

「来年こそ正念場の年に」 願いをこめて



長岡市地域ルネッサンス創造機構が、このほど2016年版長岡イノベーションカレンダーを作製。

その7月欄に匠会会員渡徳工業さんのパイオリンのみと細工カンナが紹介されました。暦のデザインは匠会ロゴを考案していただいた福田毅先生です。「世界のマイスターを唸らせた匠」として、渡徳さんが広く発信されたことを来年も匠会の励みとしたいです。

日本の誇る伝統工芸の灯を消さないためにも「後継者育成」は喫緊の課題。会員だった古見さんの旧工房を借り上げる「体験工房」計画が浮上しています。どんな目的と内容で運営でき、具体的に整備をどう進める

か、今後の大きな検討課題です。できる限り早期に体験工房の整備計画が形になるよう、毎月の定例会で全員で話し合っていきたいです。



首都圏大学生との実技交流、12年間の絆！

今月12・13日両日、河政刃物さんの鍛冶場は、刃物づくりに挑戦する大学生たちのフレッシュな感性と活力がはちきれんばかり。河政さんと長い交流のある埼玉大学のほかに今回は横浜国大、東京芸大からも参加があり、総勢21名の訪問団でした。



自分仕様の小刀を
図面に描いてきたけどイメージ通りに造れるかな？

一人ずつこだわりのデザインで刃物を造るため、指導にあたったサポート役の中野さん、高木さん、小林さん、大汗かいて限られた時間の中で大奮闘。そのかいあって最終日の品評会では、このとおり！

この実技ツアーは今年で12年間続いており、教師をめざす学生にとって重要な学習の場。与板との絆は深まるばかりだ。

